

産地パワーアップ事業の取組事例(平成28年度:計画作成主体:嬉野市農業再生協議会)(佐賀県)

取組の概要

取組の概要 : 荒茶加工用機械の導入による2番茶での釜炒り茶生産体制の整備
 計画作成主体 : 嬉野市農業再生協議会
 対象品目 : 茶(産地面積:57.11ha)
 主な取組主体 : 佐賀県農業協同組合
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 助成金の活用 : 整備事業(農産物処理加工施設)状況

ポイント

- 茶市場において、釜炒り茶の2番茶は普通煎茶及び蒸製玉緑茶よりも高単価で取引。
- 釜炒り茶製造ラインの増設により、2番茶での所得確保を図る。

地区の概要



産地の現状と目標

〈現状:H27年度〉

荒茶販売額:186,085円/10a
 (1番茶167,078円/10a 2番茶19,007円/10a)

〈目標:H30年度〉

荒茶販売額:214,835円/10a
 (1番茶167,078円/10a 2番茶47,757円/10a)



推進体制

地域の関係者(嬉野市、佐賀県農業協同組合、西九州茶農業協同組合連合会、農業関係者等)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 共同茶工場の整備にあわせて、生葉生産農家の集約や、やぶきたから早生・晩生の優良品種への改植による摘採期分散を推進。



取組成果

【事業実施による直接的効果】

釜炒り茶ラインの増設により、2番茶の販売力が向上し、単位面積当たりの荒茶販売額が40.8%増加。

【事業実施による間接的効果】

当該荒茶は被覆を要しないなど、2番茶生産の省力化が図られた。

**販売額が40.8%増加
 (達成率264.2%)**

